

私たちは誰なのか。

特別展

WHO ARE WE

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類

And What Can We Learn From Observation?

Collection of the National Museum of Nature and Science, Tokyo

Vol.01 Mammals

2026年10月3日(土) — 11月23日(月祝)

愛媛県総合科学博物館 企画展示室

Ehime Prefectural Science Museum

開館時間 — 9:00 — 17:30 (入館は17:00 まで)

観覧料 (特別展のみ) — 大人(高校生以上) 400円・小中学生 200円

(特別展+常設展) — 大人(高校生以上) 700円・小中学生 200円

問い合わせ — TEL 0897-40-4100

※10月6日(火)、13日(火)、19日(月)、26日(月)、11月4日(水)、9日(月)、16日(月)休館。

主催 — 愛媛県総合科学博物館・国立科学博物館

後援 — 愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛新聞社、NHK松山放送局、南海放送、

テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、今治CATV、

ハートネットワーク、株式会社四国中央テレビ、FM愛媛(順不同)

企画編集・デザイン — 日本デザインセンター 三澤デザイン研究室

写真 — Gottingham

サバンナの動物に目と鼻の先で向き合い、
数億年前に絶滅した遠い祖先を見つめ、
南半球と北半球の動物をすぐそばで比較する。
距離を、時間を、種をこえる多様な剥製。
展示台の引き出しに収められているのは、
これまでとは違う角度から
世界を見るための視点の標本。
開けるたびに増えていく新しい見方、
少しずつ引き出されてくる好奇心。
ふたたび剥製に目を向けると、
それまでとは異なる姿に見えてくる。
気づかなかった不思議に気づき、
わかった気になっていたことが、
わからなくなることも。
そして静かに浮かびあがってくる問い。
哺乳類とは、ヒトとは何か。
私たちは誰なのか。
剥製を見ていたはずなのに、
いつの間にか世界を見ている。自分を見ている。
それは、目の前の出来事と
地球の出来事がつながりはじめるとき。
声なき剥製だから伝えることができる生物学。

愛媛県総合科学博物館ホームページ
<https://www.i-kahaku.jp/>



本展公式サイトはこちらから



講演会

“恐竜時代”の小さなケモノたち



講師

楠橋 直 氏

(愛媛大学准教授、地質学・古生物学)

◀ 白亜紀の哺乳類(多丘菌類)の歯
産地: 鹿児島県
標本所蔵: 獣ミュージアム

中生代の哺乳類は、恐竜の陰に隠れて目立つ存在ではなかったものの、
着実に進化し、多様化していました。本講演では、化石が解き明かす
「哺乳類の起源と初期進化」について、標本の観察も交えながら紐解い
ていきます。

日時＝令和8年10月3日(土)13:30－15:00(開場13:00)

会場＝第1研修室 定員＝50名(先着順)

対象＝小学生以上 参加費＝無料(要特別展チケット)

ワークショップ

動物バッグ

トートバッグやサコッシュに、当館限
定の動物柄をシルクスクリーンで印
刷して作ります。

令和8年

10月3日(土)－11月3日(火祝)の土日祝

10:00－11:30/13:30－15:00

会場＝エントランスホール

参加費＝1,000円 定員＝各回10名



しっぽブローチ

フェイクファーの生地を使って、ふわ
ふわのブローチを作ります。

令和8年

10月3日(土)－11月23日(月祝)の土日祝

10:00－11:30/13:30－15:00

会場＝エントランスホール

参加費＝400円 定員＝各回20名

